

報告案件（2）豊田市公共交通基本計画の評価について

1 主旨について

- ・地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が令和 2 年 11 月に改正され、地域公共交通計画の毎年度の評価を国へ報告する必要があるため（別添 4）

2 豊田市公共交通基本計画の概要

- ・豊田市公共交通基本計画では、構築した公共交通ネットワークの質を高めて利用者を増やさせ、そこで得られた収入をさらなるサービス向上に充てることで利用者を増やす好循環を生み出すことを目的としていた
- ・計画期間 平成 28 年度～令和 7 年度（※令和 4 年 10 月に新計画に移行）
- ・計画の目標値は以下の通り

	基準値（H26）	目標値（R7）	増加率（基準年比）
公共交通利用者数※1	74,985 人/日	92,000 人/日	約 23%
バス利用者数	13,281 人/日	17,000 人/日	約 28%

※1 公共交通利用者数 … 鉄道とバス（基幹バス、地域バス等）利用者数の合計

3 施策の実施状況

- ・全 50 施策のうち、47 施策については概ね計画どおり実施

○計画どおり実施できた主な施策

施策名	内容	取組実績（H28～R3）
公共交通の継続的運行	公共交通等を将来にわたり継続して運行	おいでんバスの運行、民間バス路線への補助金交付
地域核等における結節点整備	主要結節点の環境整備、主要駅・バス停の乗継ダイヤ調整	交通結節点整備（藤岡支所、どんぐりの湯前）
バスの運行改編	地域の実情に合った運行サービスへの改編	おいでんバスダイヤ改編 地域バスの運行形態の改編
共通 IC カードの導入	公共交通への IC カード導入推進	全おいでんバス路線に IC カード導入（快速いなぶ除く）
観光企画乗車券の発行	観光促進のための 1 日乗車券、グループ乗車券等の販売	おいでんバスで 1 日乗車券を販売（R1）
次世代車両の導入	乗り心地や環境性に配慮した次世代車両（FCV、EV 等）の導入	FC バス SORA 2 台をおいでんバス運行路線で導入（R1～）

○進捗が遅れている施策

- （1）上屋整備・バスベイの改良
- （2）豊田市駅周辺道路の整備
- （3）利用促進会議の活用による活性化策検討

4 目標値の評価について

- ・計画の着実な実行により、公共交通利用者数は令和元年度まで増加傾向だったが、令和 2 年度に新型コロナウイルス感染症の影響を受け大きく減少
- ・令和 3 年度は前年度と比較し、外出自粛など行動制限の緩和等より増加したものの、テレワークの普及・定着や一部イベント開催中止の影響を受け、令和元年度の数値までは依然回復していない
- ・計画期間中の利用者数の推移は以下の通り

（単位：人/日）

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
バス利用者数	13,973	14,592	14,691	15,614	8,669	12,415
目標値（17,000 人）との差	▲3,027	▲2,408	▲2,309	▲1,386	▲8,331	▲4,585
公共交通利用者数	82,258	85,790	87,601	89,667	58,785	64,979
目標値（92,000 人）との差	▲9,742	▲6,210	▲4,399	▲2,333	▲33,215	▲27,021

5 今後に向けて

- ・社会状況の変化等を受け、令和 4 年 10 月に「豊田市地域公共交通計画」を策定
- ・引き続き公共交通利用者数を目標値として設定するが、テレワークなど働き方の多様化により通勤需要は以前のように戻らないと予測し、新たに以下の通り設定した

	R1	R2	R3	目標（R7）
公共交通利用者数※2	94,000 人/日	61,000 人/日	67,000 人/日	77,000 人/日

※2 公共交通利用者数 … 前計画の目標値に、タクシー利用者数を加算したもの

- ・今後は、「豊田市地域公共交通計画」で掲げる施策を着実に実行する。
- ・ウィズコロナ、アフターコロナ下での取組として、具体的には以下の取組を実施予定。

今後の具体的な取組

○おでかけバス 70 の販売

市内在住の 70 歳以上の高齢者を対象に、おいでんバス全路線で利用できる割引定期券（1 か月：3,000 円、2 か月：5,500 円、3 か月：8,000 円）を販売

○企画乗車券の販売

社会状況を考慮しながら、沿線にある飲食店などの施設や沿線施設で開催される各種イベントと連携した企画乗車券を販売し、オフピーク時間での利用を促進